

ロドデノール誘発性脱色素斑について 患者さんの質問にお答えします

(改訂6版)

ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム2
(RD-Team 2)

2022年4月作成

FAQリスト

はじめに

- Q1** ロドデノール誘発性脱色素斑については、どのような活動がされてきたのですか？
- Q2** ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム2(RD-Team2)ってなんですか？
- Q3** RD-Team2のメンバーは？

改訂6版で新たにわかったことはなんですか？

- New Q1** カネボウ化粧品のセルフタニング剤のべたつきが気になりますが、改良できますか？
- New Q2** 新しい治療薬の情報はありますか？
- New Q3** 新型コロナウイルス感染症はロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？
最新の情報を教えてください。

改訂5版(2021)で新たにわかったことはなんですか？

- 2021-Q1** 新型コロナウイルス感染症はロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？
- 2021-Q2** 脂質異常症はロドデノール誘発性脱色素斑の症状や経過に関係しますか？
- 2021-Q3** 甲状腺のホルモンの異常はロドデノール誘発性脱色素斑の症状や経過に関係しますか？
- 2021-Q4** 保湿機能を有するジヒドロキシアセトン含有化粧品のカモフラージュは
生活の質(QOL)を改善しますか？

ロドデノールの美白作用と脱色素斑発症のメカニズム

- Q4** ロドデノールが美白作用を持つのはなぜですか？
- Q5** ロドデノールが脱色素斑をおこす引き金はなんですか？
- Q6** ロドデノールがメラノサイトを減らすのはなぜですか？
- Q7** ロドデノールで脱色素斑にならなかった人たちがいるのはなぜですか？

症状と経過について

- Q8 どんな症状になるんですか？
- Q9 脱色素斑を発症した患者さんに特徴はありますか？
- Q10 脱色素斑（色が白く抜けた状態）は回復するのですか？
- Q11 ロドデノール含有化粧品の使用をやめて、まだらの状態がひどくなったのですが、だいしょうぶですか？

治療について

- Q12 ロドデノールにより生じた脱色素斑は使用をやめれば自然に回復しますか？
- Q13 現在、どんな治療が行われていますか？
- Q14 紫外線の効果について研究されていますか？
- Q15 紫外線治療はいまから受けても効果がありますか？
- Q16 治療に関するそのほかの情報はありますか？
- Q17 色素増強部位へのレーザーの治療は有効ですか？

スキンケア、遮光、化粧について

- Q18 遮光は必要ですか？
- Q19 他の美白化粧品の使用もやめるべきですか？
- Q20 スキンケア製品は使ってよいですか？
- Q21 ファンデーションやクレンジングは使ってよいですか？
- Q22 タンニング剤を使ってよいですか？
- Q23 ほぼ回復しましたが、紫外線が気になる季節になるので、再発しませんか？

患者さんへのメッセージ





はじめに

ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム(RD-Team)が2016年7月24日に活動を開始しました。2020年4月1日より、ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム2(RD-Team2)として、3名の皮膚科医のチームになりました。

今回も、調査研究結果から分かったことを追加し、改訂6版を作成しました。



Q1

ロドデノール誘発性脱色素斑については、どのような活動がされてきたのですか？

A ロドデノールを2%含有した医薬部外品は2008年に発売開始されましたが、本製品の使用者に脱色素斑等の皮膚障害が多発し、2013年7月4日に(株)カネボウ化粧品、(株)リサーチ、(株)エキップによる自主回収が発表されました。

日本皮膚科学会は2013年7月に「ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会」を組織し、調査研究を行い、患者さんたちへの質問にFAQを作成し対応してきました。この特別委員会は、2015年5月31日に市民公開講座を開催し、皆様への最終メッセージを発表することで、その役割を終えて閉会しました。

その後も、特別委員会の委員をはじめ多くの皮膚科医が患者さんの治療にあたり、またこの疾患がなぜ発症したのか、そして、どのように治療すると早期に治すことができるか、多方面からの研究がされてきました。



Q2

ロドデノール誘発性脱色素斑調査チーム2 (RD-Team 2)ってなんですか？

- A** 2016年7月24日、脱色素斑が完治せず苦悩していらっしゃる患者さんに、病因や治療の情報提供するために、(株)カネボウ化粧品からの研究費による委託研究として、ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム(RD-Team)が設立され2020年3月で終了しました。
2020年4月からこの事業を継承するためにロドデノール誘発性脱色素斑の患者さんを多く診療している3名の皮膚科医がRD-Team2を結成しました。

RD-Team2の目標は、

- 1) RD-Team2の医療施設に受診された当該患者の治療と予後を調査する。
- 2) 患者情報から新しい治療法の可能性があるか調査する。
- 3) 文献、学会発表等で報告された治療法に関する情報を専門家の見地で吟味評価する。

その上で、これらを有用な情報として患者さんへのFAQとして、年間少なくとも1回情報を提供することです。

Q3 RD-Team2のメンバーは？

A 3名の皮膚科医で構成されています。

キャプテン

松永 佳世子（藤田医科大学医学部アレルギー疾患対策医療学教授）

メンバー

澄川 靖之（すみかわ皮膚科アレルギークリニック院長）

伊藤 明子（ながたクリニック副院長）

2020年4月1日～

改訂6版で新たにわかったことはなんですか？

New Q1

カネボウ化粧品のセルフタニング剤のべたつきが気になりますが、改良できますか？

New Q2

新しい治療薬の情報はありますか？

New Q3

新型コロナウイルス感染症はロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？最新の情報を教えてください。



New

Q1

カネボウ化粧品のセルフタンニング剤のべたつきが 気になりますが、改良できますか？

A カネボウカラークリームを使っている患者さんより「べたつき感があり、乾くのが遅い」という意見が寄せられたことから、保湿感を保ったまま、べたつきを抑えて、さらっとしたつけ心地になるように改良した試験製品が開発されました。

31名の患者さんにモニターとして試験製品を1ヶ月使用していただき、アンケート調査をして回答を得ました。



その結果、約8割の方が、改良した試験製品の方が「べたつき感がない」、「さらっとしたつけ心地になる（クリーム of 乾燥が早い）」、「従来の製品より改良した試験品を使用してみたい」と回答されました。

また全員の方が「肌トラブルがなかった」と回答され、従来の製品を改良した製品に切り替える予定です。

製品については、メールにてカネボウカラークリーム担当宛て（colorcream@kanebocos.co.jp）にお問い合わせください。





新しい治療薬の情報がありますか？



A 新しい治療薬 JAK 阻害薬の可能性についてご紹介します。

人の体で炎症や免疫反応を調節するサイトカインと呼ばれるタンパクが作られ、それを細胞表面の受容体が受け取り、細胞内に信号が伝わります。ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬はこの信号を止める働きがあり、炎症や免疫反応を抑える作用があります。ロドデノールによる脱色素斑が長期間残存する方は、尋常性白斑と呼ばれる色素細胞が破壊される病態と同じようなことが起こっていると考えられています。現在尋常性白斑に対して JAK 阻害薬で炎症や免疫反応を抑制することで白斑を改善させる研究が行われています。



現在海外ではJAK阻害薬であるルキシソリチニブの外用薬の治験がおこなわれています。52週間の使用で約5割が改善すると報告されており¹⁾、将来的には有望と考えられています。

1) *Lancet* 396巻110-120ページ 2020年

また現在でもJAK阻害薬外用剤であるデルゴシチニブ外用薬（コレクチム軟膏®）がアトピー性皮膚炎治療薬として使われています（白斑に対しては保険適応外）。デルゴシチニブ外用薬を尋常性白斑に対して外用した臨床研究では2例中1例が著効し1例は無効であったと報告しています²⁾。このように十分な効果が得られているとは言えないですが、副作用は特に強くなり安全性が高いため今後の治療の一手段となりえると思われます。

2) *Australasian Journal of Dermatology* 62巻433-434ページ 2021年

一方、JAK阻害薬の内服薬についても開発が進められています。JAK阻害薬の内服薬は関節リウマチやアトピー性皮膚炎に対して適応があり現在使用されています。炎症を抑える効果は強いのですが副作用も出ることが知られています。白斑に対してのJAK阻害薬内服療法はその副作用リスクに見合う効果が得られるかどうか不明ですが、白斑が広範囲で外用療法が困難な場合には有効な手段となりえると考えられます。

以上現在わかっている内容をお知らせしましたが、JAK阻害薬はこれから数年でいろいろ発売され、新たな知見が得られるものと思われます。今後も随時お知らせしていきます。



New

Q3

新型コロナウイルス感染症はロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？最新の情報を教えてください。

A 新型コロナウイルスワクチンによる副作用についてですが、これまで、ロドデノール誘発性脱色素斑の患者さんが、ワクチン接種後数日から2週間以内に白斑に影響があったとの報告は把握していません。

RD-Team 2でも、今後も注意深く情報を集めますが、現時点では、ワクチン接種を受けないリスクの方が高いと思いますので、ワクチンの接種をお勧めします。



改訂5版(2021)で新たにわかったことはなんですか？

2021-Q1

新型コロナウイルス感染症はロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？

2021-Q2

脂質異常症はロドデノール誘発性脱色素斑の症状や経過に関係しますか？

2021-Q3

甲状腺のホルモンの異常はロドデノール誘発性脱色素斑の症状や経過に関係しますか？

2021-Q4

保湿機能を有するジヒドロキシアセトン含有化粧品の
カモフラージュは生活の質(QOL)を改善しますか？



2021

Q1

新型コロナウイルスはロドデノール誘発性脱色素斑に影響することがありますか？

A 基本的にありません。

コロナワクチンによる副作用についてですが、健常人とリスクは変わらないと考えられますので接種して差支えはありません。

白斑以外にアレルギーなどの既往がありましたら接種時に申し出るようにしてください。

リモートワークが進むなど、オンラインでの面会が増えています。

現在のオンライン会議システムで使用するwebカメラやスマートフォンのカメラの動画解像度では、大きくはっきりした白斑でない限り認識することは困難です。ですからあまり気にせず積極的にオンラインでの催しは参加していきましょう。





一方、マスク着用の外出が増えています。マスクで覆われない部位については日焼けによりコントラストが付きやすくなります。マスクで覆われない部位にはしっかり日焼け止めクリームを塗りましょう。

2021

Q2

脂質異常症はロドデノール誘発性脱色素斑の 症状や経過に関係しますか？

- A** 脂質異常症の患者さんは、スタチン等の治療薬をきちんと内服することで、白斑が良くなる可能性があります³⁾。
しっかりと治療を継続しましょう。

ただし、脂質異常症のない患者さんにおける脂質異常症治療薬の白斑への治療効果は、十分に検討されていない状況です。副作用も稀にありますので、安易に白斑の治療のためだけに脂質異常症の治療薬を服用しないようにしましょう。

3) *International Journal of Dermatology* doi: 10.1111/ijd.15330. 2021年

2021

Q3

甲状腺のホルモンの異常はロドデノール誘発性脱色素斑の症状や経過に関係しますか？

- A** RD-Teamで2018年5月に行った調査を検討した結果、甲状腺のホルモンの異常とロドデノール誘発性脱色素斑の重症度や経過が関連する可能性がわかってきましたので、白斑の治りにくい患者さんは、甲状腺の異常がないか、特に、バセドウ病はないか、かかりつけの内科の先生、あるいは、皮膚科の先生に血液検査をしてもらってください。
- そして異常があれば、治療をしてもらってください。
- 血液検査では、フリー T3、フリー T4、TSH、抗TSHレセプター抗体の検査が診断と病気の状態を反映します。

研究の結果は医学論文として投稿予定しております。



2021

Q4

保湿機能を有するジヒドロキシアセトン含有化粧品の カモフラージュは生活の質（QOL）を改善しますか？

A ロドデノール誘発性脱色素斑（白斑）の治りにくい患者さんに、保湿機能を有するジヒドロキシアセトン（DHA）含有化粧品の2ヶ月間使用していただき、皮膚を着色させカモフラージュ効果で生活の質（QOL）が改善することがわかりました。

試験期間中、本DHA含有化粧品使用による肌トラブルは見られませんでした。使用していただいた患者さんのアンケートの結果、使用感、着色、使用時のメリット、使いやすさ、継続使用希望に関して半数以上の方から良いとの回答を得ました。また、Skindex-16を用いた評価では使用前後でQOLスコアが有意に改善しました。特に感情項目のスコア改善が顕著でした。

以上より、ロドデノール白斑の治りにくい患者さんに対する本DHA含有化粧品によるカモフラージュはQOL改善に有用と結論しました⁴⁾。



使用前



使用2か月後

DHA含有化粧品につきましては
Q22 52ページを参考にしてください。

4) *Journal of Dermatology* 第47巻
801-802ページ 2020年





ロドデノールの美白作用と 脱色素斑発症のメカニズム



Q4

ロドデノールが美白作用を持つのはなぜですか？

- A** ①肌の色は、メラノサイト（色素細胞）がつくるメラニンの量と質によって決まります。メラニンとは、アミノ酸であるチロシンが、タンパク質（酵素）であるチロシナーゼと結合することで作り始められます。ロドデノールは、このチロシンの代わりにチロシナーゼと結合できるので、チロシナーゼを奪い合うことになりメラニン合成を抑制します（美白作用）。
- ②チロシナーゼと結合したロドデノールは、一部が通常のチロシン由来メラニンとは違うロドデノール由来メラニンになります。このメラニンは通常のメラニンと比べて黒色度が低いために、結果的に美白作用の一部を担っている可能性があります。

これらの美白作用は、使用中止によりロドデノールが無くなると、チロシンが元通りの材料となってメラニンが合成されるようになるので、元の状態に戻ると考えられます。しかし、メラノサイトがなくなり脱色素斑になることは、また別のことです。

Q5

ロドデノールが脱色素斑をおこす引き金は何ですか？

- A** ①ロドデノールが多量にあると、ロドデノールはチロシナーゼによって、メラノサイトの生存をおびやかす物質であるロドデノール代謝物に変化します。
- ②ロドデノール代謝物は活性酸素を生み、また、細胞内の抗酸化（解毒）物質であるグルタチオンを消耗して活性酸素がしやすい状態を作ります。過剰な活性酸素は細胞の元気をなくしメラノサイトが減少する原因になります。
- ③ロドデノール代謝物は、メラノサイトが生きていく上で必要なタンパク質と結合して変性させるので、結果的に細胞の減少につながります。解毒のためにグルタチオンがたくさん使われて新たな供給が間に合わなくなると、この変性反応がより起こりやすくなります。

これらの一連のできごとは、ロドデノールの使用中止により生じなくなり、

新たなメラノサイトによって補われます。また、これらの反応は、通常のチロシンからメラニンができる時にも同様に起こると考えられますが、ロドデノールの使用で脱色素斑が起こるのは、ロドデノール由来の代謝物の方が細胞により悪影響を与えるからと考えられています。

Q6

ロドデノールがメラノサイトを減らすのはなぜですか？

- A** ①抗酸化（解毒）の能力が低い場合、ロドデノールを使用し続けることで多くのロドデノール代謝物が継続的にできます。その結果、処理能力を超えた場合は、メラノサイトの細胞内でロドデノール代謝物が増加します。
- ②増えたロドデノール代謝物は、細胞が生きていく上で必要なタンパク質と反応し変性させます。その結果、タンパク質が正常にはたらかなくなるために細胞にダメージを与え、メラノサイトが減少すると考えられます。
- ③また、変性タンパク質によって、ストレスに対応する仕組み（小胞体ストレス応答）がはたらきますが、十分に対応できなくなると自らを消滅させる仕組み（アポトーシス）がはたらき、メラノサイト数が減少します。
- ④一方で、ロドデノール代謝物は活性酸素を発生させるので、抗酸化能力が十分でない場合には、細胞の元気がなくなり細胞数が減少して、脱色素斑形成の原因となります。

- ⑤細胞成分あるいは変性タンパク質が免疫反応を刺激し、自らメラノサイトを攻撃する可能性があります。ロドデノールの使用を中止しても脱色素斑が改善しない原因の一つと考えられていますが、まだ明らかになっていません。

Q7

ロドデノールで脱色素斑にならなかった人たちがいるのはなぜですか？

- A ①たとえロドデノール代謝物ができても、細胞の中にある解毒の仕組み（抗酸化系）が活性化され、特にグルタチオンやシステイン、あるいは代謝物を無毒化する酵素がつくられるので、ロドデノール代謝物が、たとえ過剰につくられたとしても、細胞に害を与えることはありません。
- ②さらにロドデノール代謝物により変性したタンパク質や、ロドデノール代謝物から生じた活性酸素は、メラノサイトにダメージを与えますが、同時に細胞のさまざまなストレスに応答する仕組み（小胞体ストレス応答）や、変性タンパク質などの傷ついた細胞内成分を自ら食べてしまう仕組み（オートファジー）がはたらいて、細胞のダメージをもとに戻し、メラノサイトの減少を防ぐことができます。

このことから、脱色素斑にならなかった人たちは、ロドデノールを使用し続けても、もともと細胞内に十分な抗酸化物質や解毒の仕組みがあり、メラノサイトは減少しなかったために脱色素斑はできなかったと考えられます。



症状と経過について



Q8

どんな症状になるんですか？

A ロドデノールを含有する化粧品を使用開始後、2か月から3年して化粧品を塗った部位に脱色素斑（色が白く抜ける状態）を発症する方がみつかりました。

典型的な症状は、まず化粧品を使用した部位の皮膚の色が薄くなり、症状が進行すると、まだらに脱色素斑が出てきます。一見、目立たなくても、よく見ると脱色素斑を生じている場合もありますし、境界がはっきりした脱色素斑となっている場合もあります。特に症状が出やすいのは顔、首、手、腕などです。

半数の方は脱色素斑が生じる前にかゆみや赤みが出ていますが、半数の方はかゆみや赤みがなく脱色素斑が出現しました。化粧品の使用を続け、これらの脱色素斑や炎症症状が少しずつ悪くなった方もいらっしゃったようです。

また、一部には、ロドデノール含有化粧品を使用後にかゆみや赤みなどのかぶれの症状だけで脱色素斑にならなかった方がいらっしゃいました。



Q9

脱色素斑を発症した患者様に特徴はありますか？

A RD-Teamで2018年5月に行った調査では、患者さんの職業のうち最も多かったものは主婦の方で、特定の職業との関連は認められませんでした。

患者さんのうち持病がある方は36%でした。高血圧や高脂血症の方が13%でした。また、13%にかぶれの既往がありました。

また、ロドデノール含有化粧品を使用する前から白斑のある方が4%いました。



Q10

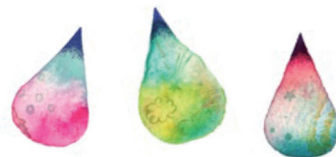
脱色素斑（色が白く抜けた状態）は回復するのですか？

A RD-Teamが2018年5月に行った調査では、担当医が経過を追えた患者さんは調査した381例中329例あり、そのうち脱色素斑が治癒した方が13%、軽快してきている方が71%、不変の方が14%、増えている方が2%で、全体の84%の方が軽快していることがわかりました。

治癒したとされる患者さんでも、そのうち2割の方で点状の小型の白斑が残っていました。

経過を追えた329例のうち、調査当時も通院されていた方が23%、通院を終了した方は77%でした。通院をやめた理由のうち34%は改善したため、34%は通院が困難であったためでした。

RD-Teamの施設でも、まだ治療を続けている患者さんがいらっしゃいますが、多くの方で白斑は改善してきています。



Q11

ロドデノール含有化粧品の使用をやめて、まだらの状態がひどくなったのですが、だいじょうぶですか？

A ロドデノール含有化粧品の使用を中止したあとに、脱色素斑（色が白く抜けた状態）のまわりの皮膚が黒くなったり、脱色素斑の中に黒い部分が出てきて、まだらの状態がよけいに目立つようになっていました。

ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会の三次全国調査⁵⁾では、回答のあった969例中、「一時期色素増強があったが消えた」が24%、「現在も色素増強が残っている」が27%でした。

5) 日本皮膚科学会雑誌 第125巻 2401-2414ページ 2015年

RD-Teamの施設を受診している患者さんも、まだらの状態がひどくなった方も経験しましたが、脱色素斑部の色が回復してくるとともに、現在では多くの患者さんが、まわりの皮膚の黒い部分は落ち着いて目立たなくなりました。

まだ回復していない方も遮光をこころがけながら経過をみていきましょう。



治療について



Q12

ロドデノールにより生じた脱色素斑は使用をやめれば自然に回復しますか？

- A** ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会の二次全国調査⁶⁾でも、ロドデノール含有化粧品の使用を中止することで自然回復する患者さんが多くいらっしゃいました。

6) 日本皮膚科学会雑誌 第124巻 3125-3142ページ 2014年

ロドデノールをマウスやモルモットの皮膚に連続して塗布すると、ヒトに生じた脱色素斑と同様の症状が再現されました。組織学的に検討した結果、正常の皮膚に比べて脱色素斑部ではメラノサイトが減っていることがわかりました。

この脱色素斑はロドデノールを塗ることをやめることにより、ふたたび色素が再生してきました。

ロドデノールにより生じた多くの脱色素斑はロドデノールの使用を止めれば自然に回復しますが、なかには回復が遅い、また脱色素斑が拡大する患者さんもおられます。

Q13 現在、どんな治療が行われていますか？

A まずは、当該化粧品の使用を中止すること、遮光をしっかりと行うことが重要です。

ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会の三次全国調査⁵⁾の結果、当該化粧品中止以外の治療としては

- ステロイド外用や活性型ビタミンD3外用、タクロリムス軟膏などの外用治療
- ビタミンC、ビタミンE、トラネキサム酸、抗アレルギー剤などの内服治療（脱色素斑の周囲の色素増強と合併する肝斑の治療のため）
- 紫外線治療

などが実際に行われています。



5) 日本皮膚科学会雑誌 第125巻 2401-2414ページ 2015年

Q14

紫外線の効果について研究されていますか？

A ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会の三次全国調査⁵⁾の結果では、約20%の患者さんに紫外線療法が施行され、顔面の白斑が約50%、手背は約30%で有効以上の効果ありと医師が判断し、医師と患者さん双方へのアンケート調査では、医師の59%、患者さんの63%が紫外線療法は有効と答えています。

尋常性白斑の治療では活性型ビタミンD3外用薬と紫外線治療の併用は推奨度C1-2といわれています⁷⁾。

ロドデノール誘発性脱色素斑の難治例13例に対してエキシマライトを用いて加療したところ、10例で白斑面積が縮小し、活性型ビタミンD3外用薬併用により色素再生時の色むら防止に役立ったとの報告があります⁸⁾。

5) 日本皮膚科学会雑誌 第125巻 2401-2414ページ 2015年

7) 日本皮膚科学会雑誌 第122巻 1725-1740ページ 2012年

8) 西日本皮膚科 第79巻 86-89ページ 2017年

Q15

紫外線治療はいまから受けても効果がありますか？

- A** 紫外線（エキシマレーザー / ライト、ナローバンドUVB）治療で効果を得るためには、少なくとも3カ月程度、毎週1回から2回照射する必要があります。治療機器のある施設もあれば、ない場合もあります。このような条件もあり、まだ、脱色素斑（白く抜けた状態）が残っていて、これまで紫外線治療をしていない方は、紫外線治療は受けてみることを強く勧めます。

RD-Teamで2018年5月に行った調査では、紫外線治療を17%の患者さんに施行し、72%(46/64名)で治療効果を認めました。その効果は、発症から1年以内に照射を始めた患者さんの89%(8/9名)、1～2年ではじめた患者さんの78%(14/18名)、2年以上ではじめた患者さんの86%(12/14名)でした。2013年から8年が経過しましたが、最近でも紫外線治療を始めた患者さんがおり、色素再生が見られることを経験しています。

Q16 治療に関するその他の情報はありますか？

- A** 天然型ビタミンD3の内服により、ロドデノール脱色素斑の症状が改善するとの報告がありました⁹⁾。
この治療に関しては、医師と相談してください。

9) *Journal of Dermatology* 第45巻 456-462ページ 2018年



Q17 色素増強部位へのレーザーの治療は有効ですか？

A 現時点では、レーザーの治療効果は不明です。色素増強（黒くなっている）部分は、色素細胞の活動性が高くなっているので、レーザーによる治療については皮膚科医師にご相談ください。





スキンケア、遮光、化粧について



Q18 遮光は必要ですか？

A ロドデノール中止後も、脱色素斑となった皮膚はメラニンによる紫外線防御ができない状況にありますので、適度な遮光は必要でしょう。回復過程で、一過性の色素増強がみられる場合もありますので、脱色素斑部分と色素再生部分のコントラストが目立たないように色素再生を促すには、サンスクリーン製品も用いて適度に遮光を行なうのが良いと考えられます。

サンスクリーン製品の使用についてご心配がある方は、サンスクリーン製品で接触皮膚炎をおこしていないかを確認しながら使用してははいかがでしょうか？光パッチテストを行うか、紫外線が当たる部位に直径2 cm程度の面積に1日2回、1週間塗布して、かゆみや赤み、ぶつぶつなどがでないか観察する方法をとると安心です。

心配な時は皮膚科医師にご相談ください。



Q19 他の美白化粧品の使用もやめるべきですか？

A 少数例ですが、他の美白化粧品で同様の脱色素斑（色が白く抜けた状態）を生じたという報告があります。

ロドデノールにより脱色素斑を生じた方が、他の美白化粧品でも脱色素斑を生じるか否かについてはわかりませんが、他の美白化粧品を使用される場合には、塗布している皮膚に異常がないか、十分注意して使用することが大切と思われます。

心配な時は皮膚科医師にご相談ください。



Q20

スキンケア製品は使ってよいですか？



A かゆみや、赤みがない状態なら、清潔や保湿、そして紫外線を防ぐなどのスキンケアは白斑のある肌にも必要です。

かゆみや赤くなるなどの症状があるときは、すべての化粧品は一度中止して、皮膚科医師に相談してください。

この場合、まずは炎症を治す治療を優先し、これらの炎症がなくなったあとに、かぶれていないことを確認した化粧品を少しずつ使ってみましょう。

かぶれているかどうか調べる簡便な検査として、肘のくぼみに化粧品を1週間塗って、かゆみや赤み、ぶつぶつなどがでないか観察する方法があります。なんともなかったスキンケア製品は使うことができます。この検査も皮膚科医師の指導にしたがって行いましょう。

もちろん、パッチテストを行って、複数の化粧品を8日間で検査することもできます。



Q21

ファンデーションやクレンジングは使ってよいですか？

A 炎症が治ったあとであれば、脱色素斑（白斑）の治療の薬を使用しながらでも、ファンデーションを使うことは問題がありません。クレンジングは皮膚に摩擦などの負担をかけないためにも、使用量を守り、優しいタッチで、強くこすらない様に丁寧にメイク料を落としましょう。ファンデーションを使うことで、白く抜けた部位を目立たなくできれば、不安がやわらぎ、生活の質（QOL）をあげることができると思います。

カモフラージュ化粧品を用いた化粧は色調を整え、色の差をより目立たなくすることができます。ロドデノールにより脱色素斑を生じた方も、炎症が治ったあとであれば、カモフラージュ化粧品を上手に使うことで生活の質（QOL）を改善することができると思います。カモフラージュ化粧品の使い方には、コツがありますので、専門的な化粧指導を受けてくださることをおすすめします。



Q22

タンニング剤を使ってよいですか？

A 首や手の甲は、顔に比べると色素の再生に時間がかかっています。カモフラージュ化粧を施すことで衣類が汚れる、手洗いで化粧が落ちてしまうなど化粧では満足が得られないことも多いと思います。そのような部位には摩擦や水で落ちにくい、セルフタンニング（肌に塗ると、肌の一番外側の角層に色が付き、周囲の肌の色と近い状態になりますが、塗るのをやめると2週間程度でもとの肌の色になる）化粧品が、衣類に色が付かず、洗っても落ちない点で生活の質（QOL）を改善する可能性があります。なお、ジヒドロキシアセトン含有化粧品（ダドレス[®]）によるセルフタンニングは、着色が薄くなった状態であればUVBによる紫外線治療と並行して行うことが可能であることが報告されています¹⁰⁾。

10) *Aesthetic Dermatology* 第25巻 434-442ページ 2015年



ジヒドロキシアセトン(DHA)含有化粧品について

白斑、色素脱失のカバー用のジヒドロキシアセトン含有化粧品としてはグラファラボラトリーズ社のダドレス[®]が知られています。お問合せ先はMMA:メディカルメイクアップアソシエーションフリーダイヤル 0120-122-042 です。



グラファ ダドレス

ジヒドロキシアセトン含有化粧品として同様に様々な化粧品が販売されていますが、カネボウ化粧品でもカネボウカラークリームが製品化されています。お問い合わせ先は colorcream@kanebocos.co.jp です。



カネボウ カラークリーム 40mL

Q23

ほぼ回復しましたが、紫外線が気になる季節になるので、再発しませんか？

A ロドデノールが残っている時に、紫外線を浴びると、メラノサイトのチロシナーゼ酵素が多く作られて、ロドデノールが酸化しやすい状態になり、脱色素斑ができやすくなったことが考えられます。

しかし、最近の研究で、ロドデノールは皮膚の中に長くは残らないことがわかってきましたので、自主回収から8年9カ月を経過した現在では、紫外線にあたり、脱色素斑が悪くなることは、考えにくいようです。

紫外線はサンスクリーン剤などで、防ぎながら、戸外にもでることができます。



いまま脱色素斑やまわりの色素増強が完治せず 苦悩していらっしゃる患者さんへ

みなさまの治療と毎日の生活に有益な情報を提供するために2020年4月よりRD-Team2を立ち上げました。あらたに判明した点について年1回以上、FAQとして情報提供を致します。

私たちは、実際に患者さんを診療しています。その経験をもとに、この皮膚疾患で悩んでいる全国の患者さんのご質問や問題を調査研究してまいります。

ご質問がありましたら、RD-Team2事務局までFAXかメールでお送りください。患者様の多くに関係した質問へのお答えは、このFAQに追加して掲載します。

ロドデノール誘発性脱色素斑に関する調査研究チーム2
(RD-Team2) キャプテン 松永佳世子

ご質問宛先 RD-Team2 事務局

FAX：052-323-6413

E-mail：allergy@fujita-hu.ac.jp



